

熊さんは、12ページで、『…そんな時、105ミリか200ミリを持ってたら、レンズを交換して、同じように絞りを開いて撮るでしょうねえ。もちろん、望遠だから、ピント合わせには気を付けるでしょうが…』と言っていたが、先のバックのゴチャゴチャした写真にやあ当てはまるとしても、どんな場合でも当てはまるってえもんじゃあねえ。

バックをボカす基本は、確かに『絞りを開く』ってえことなんだが、レンズの種類や撮影距離、それに、その時の背景の状況や光量によっちゃあ、f8やf11を使用したほうがいいこともあるんだ。望遠の200ミリでも被写界深度が約0.6メートルってえ、カワイコちゃんを撮る分にはあ頃合のいいこともあるんだからな。……難しい面してんな。頭がこんがらがっちゃったかい。

じゃ、もう少し噛み砕いて話そうな。例えば熊さんが、開放値がf4の200ミリを使って約6メートルのところから、海や空などの単純なバックを背にしたカワイコちゃんを撮影しているとするな。で、眼や顔だけにピントがくるように作画したい時には、開放にし（被写界深度0.22メートル）、上半身や服の柄までクッキリ浮かび上がらせたい時には、f8（被写界深度0.44メートル）や、f11（被写界深度0.61メートル）を使えばいいってことさ。夏場、そんなポスターを見たことがあるだろう。まあ、なんとなく、わかったかい。一度試してごらん。

また、105ミリしか持っていなかったら、距離を半分にして撮影すればいい。

熊さん、105ミリの被写界深度表から、3メートルの被写界深度を自分で確認してみな…」。

熊さん

「いえね、あっじゃあ、バックをボカすにゃあ、簡単に絞りを開きやいって思ってたんですがね、それは基本で、これは応用つつうか、御隠居みてえな、○印の中にキのあるお人の話つつうか…。………やっぱ御隠居は狸だねえ…、最後になるってえと、いつも話が妙ちきりんになっちゃまって、お狸様に馬鹿された気分になっちゃう…」。

それで、105ミリの被写界深度はってえとだな…、f4、3メートルの被写界深度は、0.20メートル、f8では0.40、f11では0.57メートル…。

………ちよいとこの差はあるが、まあ、200ミリとだいたい同じってえとこですねえ…。

御隠居、そんじゃあ、50ミリだと約1.5メートルで写せば、ほぼいっしょだね…」。

御隠居

「自分で調べな。ひよんなことから、被写界深度表の別の使い道を言っちゃったが、そういえば、こんな使い方もあったなあ。ハツハツハ。暇な時に、被写界深度表でピントの合う範囲を調べて実際の撮影に役立てるのもいいだろうなあ。もう、被写界深度についてちゃあ、何も言うこたあねえ。後は、実際に撮影して経験を積むだけさ。そうさな、データを記入した写真のファイルを、一度作ってごらん。その際、同一の被写体に対して、レンズ別、距離別、f値別にデータを記入した項目を一つ設けておくと、どういう写り方をするかがわかって何かと後で役に立つ…」。

熊さん

「…なるほどねえ。玉に遊ばれねえよう、頭だけは常に絞って使いやしよう…」。

（ボケとカワイコちゃんの巻、これにて終しまい）